

ENEOS スーパー耐久シリーズ 2022 Powered by Hankook  
 第2戦 NAPAC 富士 SUPER TEC 24 時間レース

国内最長レース“富士 24 時間”で PIAA のライティングシステムを  
 搭載したマシンが過酷な 24 時間レースを走破！



ST-X クラスでは 3 台の GT-R nismo GT3 が躍進！ 62 号車 HELM MOTORSPORTS が総合優勝  
 ST-Q クラスの ENDLESS AMG GT4 がクラス優勝！



ST-2 クラスでは ENDLESS GR ヤリスが市販の LED バルブを搭載し 2 位！  
 ST-5 クラスの BRIDE FIT は昨年までの HID から LED ランプで参戦！

### ■概要/Outline

2008 年の十勝 24 時間レースを最後に国内での開催が見合わされてきた“24 時間耐久レース”が 2018 年に復活。以来、国内最長レースとして定着している「富士 SUPER TECH24 時間レース」が 6 月 2 日-5 日、静岡県富士スピードウェイを舞台に開催された。

今年で 5 回目の開催を迎える同大会は、スーパー耐久シリーズの第 2 戦として開催されており、計 9 クラスに総勢 56 台がエントリー。国内レース競技で唯一ナイトセッションが行われるイベントとなっているだけに、ライティングシステムのサプライヤーとして国内外のモータースポーツシーンに参戦する PIAA も数多くのチームをサポートしており、各クラスで PIAA ユーザーが活躍！

最高峰の ST-X クラスでは PIAA のライティングシステムが標準装備されている 3 台のニッサン GT-R NISMO GT3 が総合優勝をかけてトップ争いを展開。HELM MOTORSPORTS の 62 号車「HELM MOTORSPORTS GTR GT3」が勝利を飾るほか、GTNET MOTOR SPORTS の 81 号車「DAISHIN

GT3 GT-R」が3位につけるなど素晴らしいパフォーマンスを披露した。

また注目を集めたのが開発車両クラスのST-Qクラスで、ENDLESS SPORTSの3号車「ENDLESS AMG GT4」が総合6位で完走を果たし、同クラスを制覇した。また同クラスにはニッサンが新型Zをベースに開発した2台の「NISSAN Z Racing Concept」を投入。カーボンニュートラル燃料を使用したNISMOの230号車はマシントラブルでクラス5位に終わったが、ガソリンを使用したMax Racingの244号車がクラス2位に着けたことも2022年大会のトピックスだ。

そのほか、ST-2クラスに目を向けるとENDLESS SPORTSの13号車「ENDLESS GRヤリス」が2位入賞を果たしたほか、ST-5クラスではチームBRIDEの4号車「THE BRIDE FIT」が5位につけるなど過酷な24時間レースを走破。

このように2022年の大会でもPIAAユーザーがナイトステージでも安定した走行で、PIAAのライティングシステムのパフォーマンスが発揮された。



恒例の花火もヘアピンカーブ付近で打ち上げ！マシンと花火の競演で雰囲気最高です！



ダンロップコーナー付近ではFUJI24Hビレッジが出現、大型モニターでの観戦やトークイベントで盛り上がりました！

## ■レポート/Report

2008年の十勝24時間レース以来、国内としては10年ぶり、富士スピードウェイとしては50年ぶりとなる24時間レース「富士 SUPER TEC24 時間レース」が2018年に復活。以来、スーパー耐久シリーズの名物ラウンドとして定着し、毎年のように各クラスでドラマチックな名勝負が展開されるほか、コースサイドでは多くのレースファンがキャンプやバーベキューをしながらレース観戦を楽しむなど、まさに“富士24時間”は年に一度の祭典として親しまれているが、この国内レースシーンで最長の距離と時間を誇る特別な一戦が帰ってきた。5回目の開催となる2022年の大会には計9クラスに56台がエントリー。国内のトップシリーズで活躍する主要チームおよび有力ドライバーが過酷な耐久レースに参戦していた。



FUJI24Hヒレッジには多くの人たちがビール片手に盛り上がり、コースサイドにもいたる所にテントが貼られBBQなどを楽しみました

富士スピードウェイは24時間レースの開催に合わせて照明設備を増設してきたことから、ナイトセッションでも各コーナーは明るく照らされていたが、優勝を目指す主要チームにとってはライティングシステムの強化が課題となっていたのだろう。その要望に応えるべく、ライティングシステムのサプライヤーとしてWRC（世界ラリー選手権）やニュルブルクリンク24時間レースで豊富な実績を持つPIAAも富士24時間で数多くのチームをサポートさせて頂きました。

なかでも最大の注目を集めていたのが、「STOが参加を認めたメーカー開発車両または各クラスに該当しない車両」と対象とするST-Qクラスにほかならない。同クラスにはトヨタ系チーム、ORC ROOKIE Racingが水素エンジン搭載の32号車「ORC ROOKIE GR Corolla H2 concept」やカーボンニュートラル燃料を使用した28号車「ORC ROOKIE GT86 CNF Concept」を投入したほか、スバル系チームのTeam SDA Engineeringがカーボンニュートラル燃料を使用した61号車「Team SDA Engineering BRZ CNF Concept」、マツダ系チームのMAZDA SPIRIT RACINGがバイオディーゼル燃料を使用した55号車「MAZDA SPIRIT RACING MAZDA2 Bio concept」を投入するなど多くの自動車メーカーがカーボンニュートラルに対応した次世代の開発モデルを投入していたが、そのなかで最大のトピックスとなったのが、ニッサンが投入した2台の「Nissan Z Racing Concept」だと言えるだろう。同マシンは文字どおり、新型Zをベースにニッサンが開発したレーシングマシンで、NISMOがカーボンニュートラル燃料を使用した230号車、Max Racingがガソリンを使用した244号車を投入。いずれもナイトセッションに対応すべく、テストでは装着されていなかったLEDライトが本番レースでは装着されていた。



日産 Z Racing Concept はカーボンニュートラル燃料と通常ガソリンの2台でテスト参戦。

残念ながら 230 号車はマシントラブルで予定外のピットストップを強いられたことにより、ST-Q クラスで 5 位にとどまったが、244 号車が安定した走りを披露し、クラス 2 位で完走を果たした。

また同クラスでは ENDLESS SPORTS の 3 号車「ENDLESS AMG GT4」が躍進。ENDLESS AMG GT4 はこれまで ST-Z クラスで活躍してきたが、今大会には ENDLESS のブレーキシステムを採用したことから ST-Q クラスへ参戦していた。ENDLESS AMG GT4 は同クラスでも抜群の速さを見せており、総合 6 位で完走したほか、圧倒的なスピードでクラス優勝を獲得する。



ST-Q クラス優勝の ENDLESS AMG GT4・・・ブレーキローター、パッド無交換で 24 時間を走破！

さらに ENDLESS SPORTS の 13 号車「ENDLESS GR ヤリス」も ST-2 クラスで素晴らしい走りを披露。市販バージョンながら PIAA の最新の LED バルブを装着することで、コーナーのクリッピングを照射することにより、ナイトセッションでも安定した走り披露していた。残念ながら ENDLESS GR ヤリスはマシントラブルに祟られたことで 2 位に惜敗することとなったが、レーシングマシンの過酷な G のなかでも市販 LED バルブのトラブルはなく、PIAA の LED バルブの耐久性の高さを証明した。



ENDLESS GR YARIS の純正フォグ位置にはプリウス純正のハゲッソフオグを移植し、PIAA 製 LED バルブ を装着！

100R、300R のクリッピングポイントを照らしていました！

もちろん、最高峰の ST-X クラスでは PIAA のライティングシステムを公認パーツとして標準装備した 3 台のニッサン GT-R NISMO GT3 が総合優勝をかけてトップ争いを展開。その頂上決戦を抜け出したのが、HELM MOTORSPORTS の 62 号車「HELM MOTORSPORTS GTR GT3」で、スタートから 8 時間後にドライバー連続運転時間の違反により 180 秒のペナルティストップを受けるシーンも見られたが、それでも粘り強い走りを披露し、総合優勝を獲得した。



総合優勝のHELM MOTORSPORTS Team



HELM MOTORSPORTS GT-R nismo GT3

またトップに着けながらも、フィニッシュまで残り3時間30分というタイミングでエンジントラブルに祟られて勝利への道が遠退いたGTNET MOTOR SPORTSの81号車「DAISHIN GT3 GT-R」も無事にレースへ復帰し、3位で表彰台を獲得。MP Racingの9号車「MP Racing GT-R」も予定外のピットストップを強いられることとなったが、それでもチェッカーを受け、ST-Xクラス5位で完走を果たした。



MP Racing GT-R

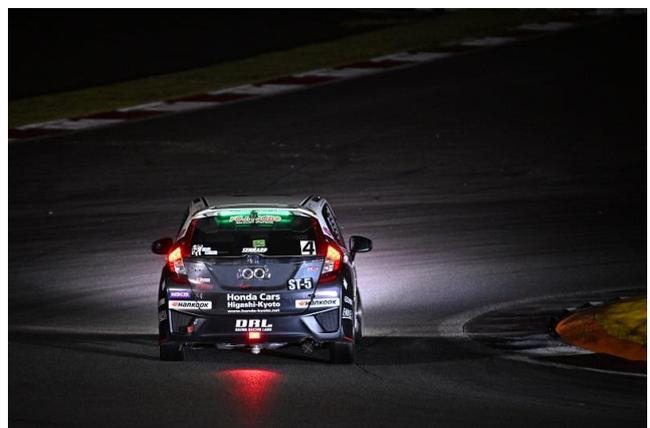


DAISHIN GT3 GT-R

そのほか、ST-5クラスに目を向けるとチームBRIDEの4号車「THE BRIDE FIT」もPIAAユーザーとして活躍。2022年は昨年までのHIDランプからLEDバーランプにシステムを変更した結果、明るさと照射範囲が向上したとドライバーからも好評で、ナイトセッションでも安定した走りを披露していた。残念ながらトップ争いからは後退したものの、それでも過酷な24時間レースを走破し、5位に入賞している。



THE BRIDE FIT PIAA LED バーランプ装着



後方から見てもしっかり照射していることがわかります！

5度目の開催となった2022年の富士スーパーテック24時間レースも、FCYが11回、SCが3回に渡って導入されるなど、例年と同様にサバイバルレースが展開されたものの、それでもPIAAユーザーたちは各クラスで素晴らしい走りを披露。PIAAのライティングシステムのパフォーマンスを過酷な長距離レースで証明いたしました。

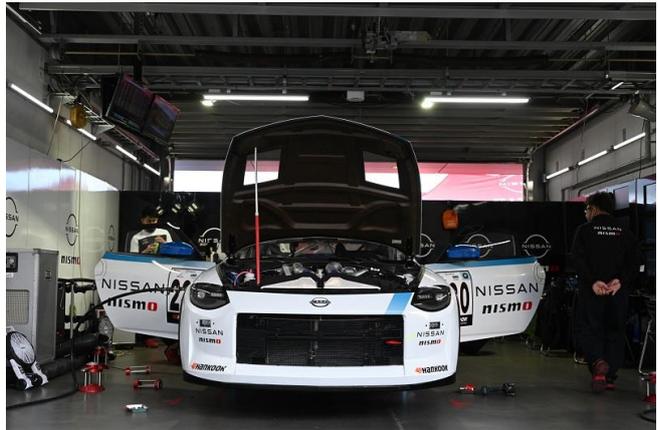
■PHOTO GALLERY

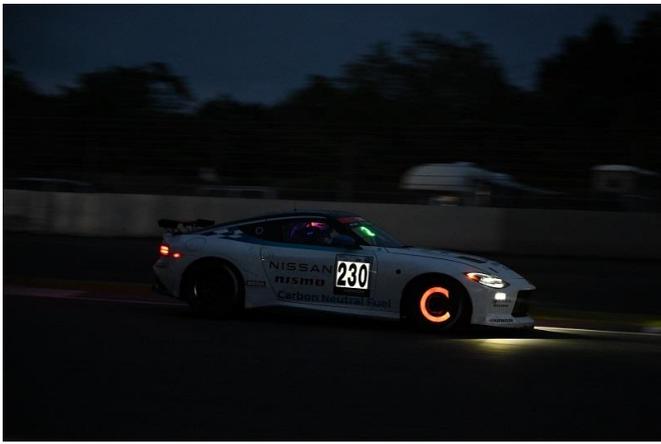


2022 年秋に OPEN する FujiSpeedway Hotel に “24h” の文字













24 時間で 760 ラップ=約 3,468 kmを走破！



完走したすべてのマシンがすべてのチームから祝福を受け、讃えられる時間。  
また来年お会いしましょう！